

12. 第 16 回高木レクチャーについて

第 16 回高木レクチャー (2015 年 11 月) の報告をします。

今回の高木レクチャーは、小平邦彦生誕百年記念事業と連動して東京大学大学院数理解析科学科で開催され、同時に講演会場の隣の教室ではパネル展示とビデオ上映をしました。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、世界から卓越した数学者を日本に招聘し、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的として設立されたものです。この趣旨に基づき、2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開かれ、今回で 16 回目となります。

第 16 回高木レクチャーは、2015 年 11 月 28 日 (土)・29 日 (日)、東京大学の駒場キャンパスにある数理解析科学科棟の大講義室において、日本数学会と東大数理の主催で開催され、以下の 4 名の数学者による、それぞれ 2 時間ずつの講演が行われました。

- Fabrizio Catanese (Universität Bayreuth)
"Kodaira Fibrations and Beyond:
Methods for Moduli Theory"
(小平のファイバー空間とその展開
---モジュライ空間の方法)
- Jean-Pierre Demailly (Université de Grenoble I)
"Recent Progress Towards the
Kobayashi and Green--Griffiths--Lang
Conjectures"
(小林予想および Green--Griffiths--Lang
予想の最近の進展)
- Masaki Kashiwara (柏原正樹氏) (RIMS,
Kyoto University)
"Riemann--Hilbert Correspondence for
Holonomic D-modules"
(ホロノミック D 加群に対するリーマン=ヒルベルト対応)

- Shing-Tung Yau (Harvard University)
"From Riemann and Kodaira to Modern
Development on Complex Manifold"
(リーマンと小平邦彦から複素多様体論
の現代の発展へ)

講演者の一人の予定便がキャンセルされて御到着が遅れるというハプニングもあり、講演の順序を急遽変更することになりましたが、参加者は 250 名を超え、高木レクチャーとして過去最高の大盛況となりました。受付では、予稿の (1.5cm 程の厚みがある)「高木ブックレット」(v+232 頁) が配布されました。その研究総説論文は加筆修正の上、査読を経て Japanese Journal of Mathematics (JJM) に掲載されることになっています。講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web 上で一般公開する予定です。

JJM は、2006 年に 3rd Series として新しい創造を引き起こすような「研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました。広く皆さまからのご投稿をお待ちしています。なお、数学会会員は JJM の個別のバックナンバーを会員割引価格 7500 円 (+消費税) で日本数学会事務局より購入することも可能です。

(小林俊行 記)